



副作用について

「薬の副作用」と聞くと怖いイメージがありますね。そのリスクをさけるために、気を付けたいことなどをご紹介します。



● 主作用・副作用

薬の目的は症状を治すことです。たとえば、かぜ薬は熱を下げたり鼻水を止めることを目的に服用します。このように病気を治したり、軽くしたりする働きを「主作用」、それに対して目的以外の好ましくない薬の働きを「副作用」といいます。

副作用の症状

- ・眠くなる
- ・のどがかわく
- ・身体がかゆくなる
- ・身体にブツブツができる
- ・頭が痛くなる
- ・動悸がする
- ・めまいがする
- ・おなかが痛くなる
- ・下痢をする など

例 花粉症の薬 → **主作用** 目のかゆみ、鼻水などを抑える

副作用 眠気、口の渇き

例 消炎解熱鎮痛剤 → **主作用** 炎症や痛みを抑える、熱を下げる

(痛み止め) **副作用** 胃痛、胸焼け

薬のアレルギー症状が出る場合もあります。

薬を飲んで少しでも「おかしいな」とおもったら医師または薬剤師にご相談ください。

● 副作用をおこさないために

副作用を起こさないよう、医師・薬剤師は薬の飲み合わせをみたり、患者さんにアレルギーなどがなければ、今まで副作用がおこったことはないか、などお伺いしています。患者さん自身でも、以下のことに気をつけて薬を服用すると、より安心して薬を飲むことができます。

- ①用法・用量を守る … 「早く治したいからもう一錠」「同じ症状の人の薬をのんだ」など自己判断はやめてください。以前にもらった薬も使わないでおきましょう。
- ②医師・薬剤師に伝える … お薬手帳や問診を利用し、自分の体質や病状、副作用の経験など事前に医師・薬剤師にきちんと伝えましょう。
- ③自分の薬を知る … 一緒に飲んではいけない薬、食べてはいけないもの、を薬剤師からしっかり聞き、守りましょう。薬の説明書には副作用についても書いてあります。自分の飲んでいる薬について学び、副作用が起こったら、すぐに伝えられるようにしましょう。

薬や身体に関する相談や不安なことなどあれば、どうぞ当薬局にお声かけください。